

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号	0046		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	創造工学科 (化学・生物コース)		対象学年		3		
開設期	通年		週時間数		前期:2 後期:2		
教科書/教材	政治・経済 (佐々木毅他著 東京書籍刊) / 「政治・経済資料2022」 (とうほう)						
担当教員	石井 智子						
到達目標							
政治は基本的人権、日本国憲法の制定、国会や立法など民主政治の基礎が理解できる。経済については資本主義・自由主義経済について、また環境問題、社会福祉等、社会全体に及ぶ政治・経済の基礎が理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	基本的人権、民主政治について理解し説明できる		基本的人権、民主政治について理解できる		基本的人権、民主政治について理解できない		
評価項目2	資本主義経済が及ぼす環境問題、社会福祉について理解し、説明できる。		資本主義経済が及ぼす環境問題、社会福祉について理解できる。		資本主義経済が及ぼす環境問題、社会福祉について理解できない。		
評価項目3	政治と経済のつながりによる社会全体を通しての諸問題を理解し、説明できる。		政治と経済のつながりによる社会全体を通しての諸問題を理解できる。		政治と経済のつながりによる社会全体を通しての諸問題を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
(B) 幅広い教養と技術者・研究者としての倫理を身につける。							
教育方法等							
概要	政治・経済の基礎を培い、社会人として、教養人として、広い視野で判断する力をつける						
授業の進め方・方法	座学・講義形式。教科書・資料集をもとに、時事問題等を取り上げながら板書・説明する。						
注意点	総合評価は、定期試験70%、平常点20%、授業態度10%						
事前・事後学習、オフィスアワー							
教科書。資料集の自学自習、板書事項の確認など、要点を整理するようにノートなどにまとめること、授業終了時等、質問には受け付ける。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1-1民主政治の成立		民主政治とは何か、歴史的視点から理解する。		
		2週	1- 2 基本的人権の確立		基本的人権の成立について歴史的観点、および国際的視点から人権の多様化について理解する		
		3週	1-3現代の民主政治		現代の民主主義について歴史的経緯をもとに議会制民主主義、大衆主義について理解する		
		4週	1- 4 世界のおもな政治体制		議会制民主主義、大統領制、社会主義体制など世界の政治体制について理解する。		
		5週	1- 5 日本国憲法の制定と基本原理		日本国憲法の成立過程と基本原理について歴史的な視点から考察し、理解する。		
		6週	1-6基本的人権の保障		憲法に基づく基本的人権の他、社会の変化に伴う新しい人権について理解する。		
		7週	1-7平和主義		憲法に基づく平和主義と安全保障について理解する。		
		8週	1-8国会と立法		国会の立法機関について、三権分立の構造について理解する		
	2ndQ	9週	1-9内閣と行政		内閣と国会についての機能を理解する		
		10週	1-10裁判所と司法		司法権の独立について理解する。		
		11週	1-11地方自治		地方自治における民主政治について理解する。		
		12週	1-12戦後政治と政党		政党政治と民主政治について理解する。		
		13週	1-13選挙と政治意識		選挙制度と政治への参加意識について理解する		
		14週	1-14世論と政治参加		世論とマスメディア、情報の多様化によるメディア・リテラシーについて理解する。		
		15週	1-15国際政治の特質		国際社会における主権国家、安全保障について学ぶ		
		16週					
後期	3rdQ	1週	2-1-資本主義体制の成立		資本主義体制の成立について歴史的経緯から理解する		
		2週	2-2資本主義経済の発展と変容		資本主義経済の変容の歴史的経緯および社会主義体制と自由主義経済を理解する		
		3週	2-3経済主体と経済の循環 生産のしくみと企業		経済主体の循環システムおよび企業の社会的責任について理解する。		
		4週	2- 4 市場経済の機能と限界		市場経済における活動と市場の失敗について理解する。		
		5週	2- 5 国民所得と経済成長		国民所得の状況、変化、景気変動について理解する。		
		6週	2-6金融のしくみと機能		金融について通貨制度と銀行の役割について理解する。		
		7週	2-7財政のしくみと機能		財政の役割と政策、租税について理解する。		

		8週	2-8経済再建から高度成長へ	戦後の経済復興と高度経済成長、民主化について理解する。
	4thQ	9週	2-9 オイル・ショック後の日本経済	オイル・ショック後の日本経済の変容と産業構造の変化等について理解する。
		10週	2-10日本経済の現状	「構造改革」の影響と特徴について理解する。
		11週	2-11公害と環境保全	経済活動の課題である公害問題の現状を理解する。
		12週	2-12消費者問題 農業・食料問題	市場における消費者としての問題、農業と食料の問題について理解する。
		13週	2-13中小企業の現状と課題	日本の中小企業について理解する。
		14週	2-14雇用と労働問題	労働問題と労働運動を的視点から理解する、また雇用環境の変化と現代の労働問題について理解する。
		15週	2-15社会保障と福祉	社会保障および社会福祉について理解する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	3	

評価割合

	試験	課題・レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	10	0	0	100
基礎的能力	60	20	0	10	0	0	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10